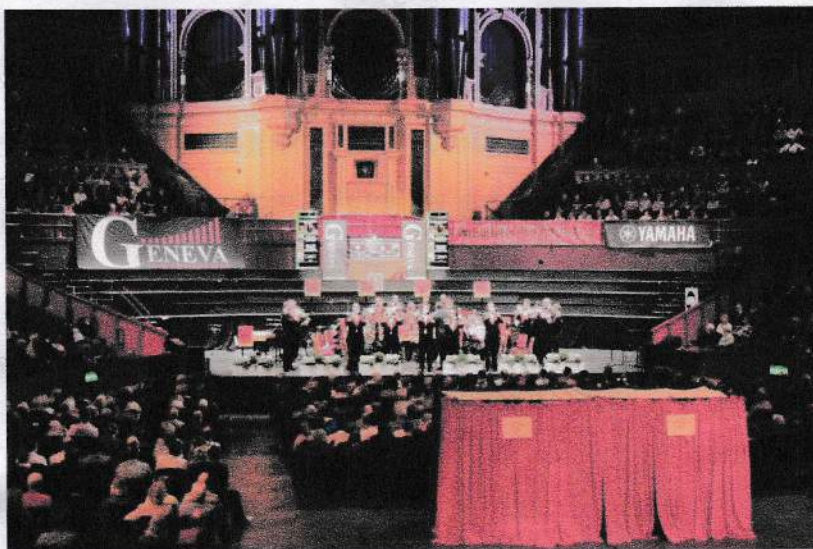


# 全英ブラスバンド選手権を観戦して

原 進(洗足学園音楽大学講師)

10月11日(土)にロンドンのロイヤルアルバートホールで開催された「ブラスバンド全英選手権」を観戦してきました。私は4年ぶり6回目となり、当初は一人で行く予定でしたが本場のブラスバ



ンドを聴いてみたいという私の音楽仲間が最終的には6名集まり、計7名での旅となりました。一行は8日に日本を出発してロンドン入りしましたが、今回の参加メンバーのほとんどが初めてのイギリスだったため、翌日は体調を整えながらロンドン市内を散策し、翌々日はレンタカーで私が仲間にご案内したかった世界遺産の「カンタベリー大聖堂」に向かいました。私はこれまでに数々の古城、寺院、大聖堂を訪れましたが、やはりここが一番印象的且つ感動的な場所で、大聖堂の中で過ごす時間はとても早く、今回もあっという間に時が流れてしまいました。さて、土曜日はいよいよ本命の「The National Brass Band Championships of Great Britain」の開催です。このコンクールは10年以上もの歴史があり、今年も各地区の予選を勝ち抜いた20団体が出場しました。全英選手権では課題曲1曲のみが演奏されるのですが、今年は若手作曲家として活躍している P.ミーチャン氏が作曲した「キング・アーサーの伝説」で、5世紀から6世紀初めのブリトン人の伝説的な君主である「アーサー王」をイメージして書かれた作品で

す。この曲は大きく分けて5つの場面に分けられており、特に表現面では各バンドによって音楽の方向性の違いが顕著だったので、すべて

の団体を最後まで興味深く拝聴することができました。個人的には「指揮者」の重要性を改めて感じさせられた今年のコンクールでした。そんな中で、作者の意図やバンドの力を存分に引き出し、聴いているとスコアが頭に浮かんでくるほどクリアなサウンドを作っていた P.ハーバー氏が指揮した「コーリーバンド」がとても印象的でしたが、優勝は更にその一歩上を作り上げた「ブラックダイクバンド」でした。9月のブリティッシュオープンに引き続き、全英選手権では5年ぶりとなる見事な優勝でした。実はこの日の朝、私たちがアルバートホールに到着して間もなくのこと、ブラックダイクの指揮者である N.チャイルズ氏と運良く再会することができました。その時に氏がやや興奮した様子で私に「今日の出演順が最後に決まったよ!」と話してくれた表情を目にして、何となく「これはもしかしたら…」と、直感的に結果が先に脳裏をよぎりましたが、それがまさに実現された瞬間でした! 来年は10月10日に開催されるこのコンクールにぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか?!